

専 門 教 養
令和 3 年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
中・高等学校共通 国 語

注 意

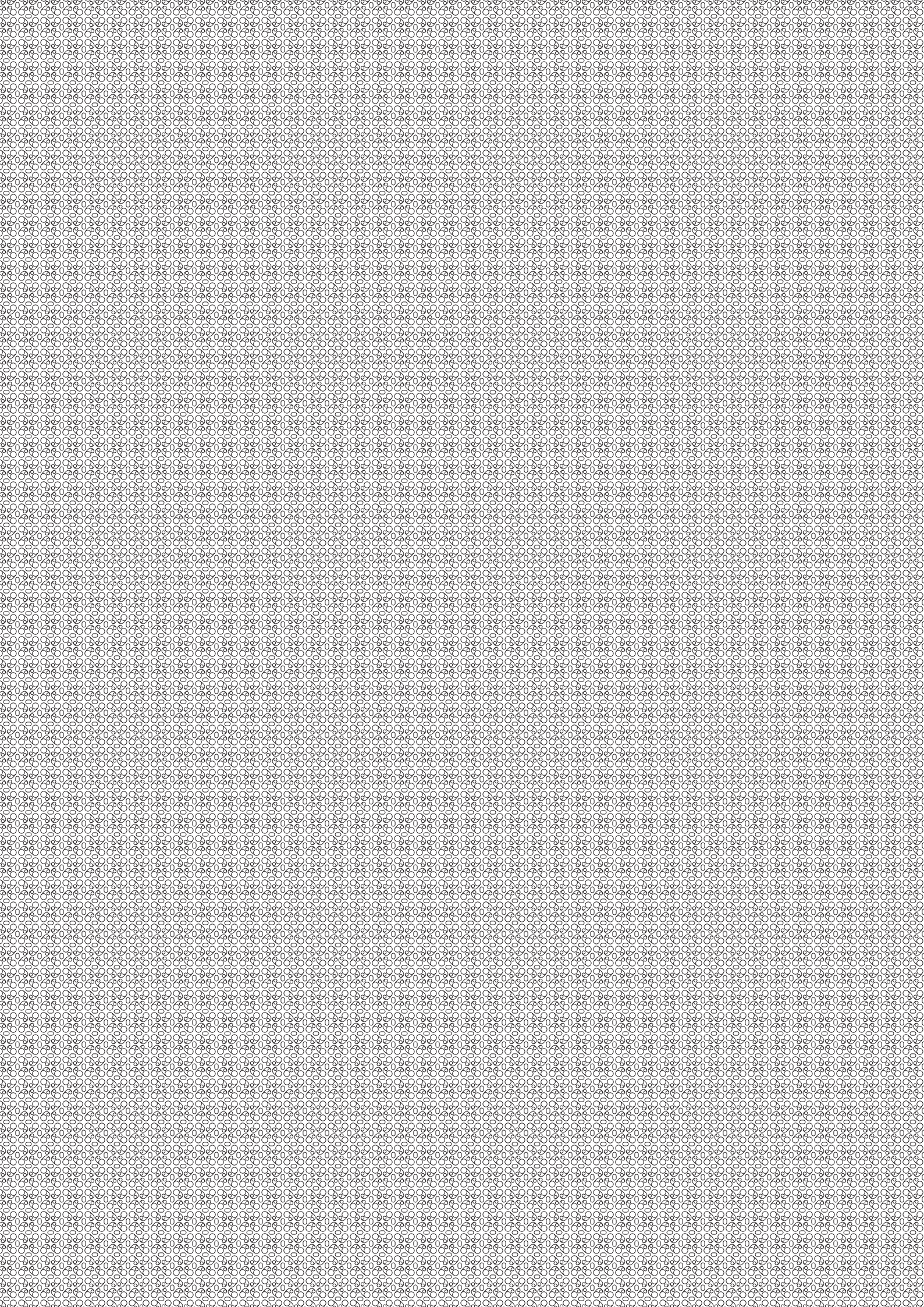
- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、23ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に、**必要事項が正しく記入・マークされていない場合には、解答は全て無効**となります。
解答用紙の【1】の欄には、**受験番号**を記入し、**受験番号に対応する数字をマーク**してください。
【2】の欄には、**氏名**を記入してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。各問に対して、正答は一つだけです。**各解答欄に二つ以上マークした場合は誤り**とします。
- 2 「解答番号は 1。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例）のように解答番号 1 の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答 番号	解答欄
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖



「※」の部分は、掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

一

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

（佐藤直樹『創発の生命学 生命が1ギガバイトから抜け出すための30章』から作成）

問1 傍線部(ア)～(ウ)のカタカナを漢字に直したとき、その漢字と組み合わせ

わせて二字熟語になるものは、次の各群の1～4のうちのどれか。

解答番号は(ア)が 1 、(イ)が 2 、(ウ)が 3 。

(ア) イン|トン

1 影
2 政
3 忍
4 縁

(イ) デン|カ

1 負
2 聞
3 拳
4 絶

(ウ) ソ|ガイ

1 置
2 隔
3 直
4 彫

問2 傍線部(1)～

*

その具体的な事例として最も適切なものは、次の1～4のうちでは
どれか。解答番号は 4 。

1 エネルギ―が流入する一方で、代謝により身体が衰えてしまう
生物や人間のはかなさを表している。

2 川の流れによって消えてもまた生じる泡のように、次世代を作
る生物や人間の強さを表している。

3 生物や人間に共通の生命システムを取り上げ、鴨長明の考えを
科学的に証明できる驚きを表している。

4 外部からの力を取り入れ続けることで、生命を維持できるとい
う生物や人間の有様を表している。

「とあるが、

問3 傍線部(2)「

＊

」とあるが、「＊」「及び」「＊」「

の説明として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は5。

- 1 どちらの構造も組織化の際にエネルギーを必要とするが、動的な構造はエネルギーの流入が常に必要なので静的な構造と比べて不安定である。
- 2 静的な構造はエネルギーが非常に安定した構造で駆動力が最小であるが、動的な構造は空間に固定される時にエネルギーが最大になる。
- 3 動的な構造は秩序を保つために自由エネルギーを必要とするが、静的な構造は内部の力が安定しているため自発的に形成されることはない。
- 4 二つの構造は内部エネルギーが最小になっているので、必要な物質を空間に留めることで人工的に再現できる安定的な構造になっている。

問4

Ⅵ 段落の役割について説明したものとして最も適切なものは、

次の1～4のうちではどれか。解答番号は6。

- 1 直前の段落で確認した具体的な内容を受け、Ⅵ 段落では、抽象的に言い換え、主張をまとめている。
- 2 直前の段落で確認した一般論に続けて、Ⅵ 段落では、新たな観点を導入し、主張を転換している。
- 3 直前の段落で述べた事象の説明を踏まえて、Ⅵ 段落では、鴨長明の文章に触れて、論に多彩な展開をもたせている。
- 4 直前の段落で提示した具体的な事柄に対し、Ⅵ 段落では、内容を整理し、新しい論につなげている。

問5 傍線部(3)「

*

「とあるが、その理由として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 7。

1 『方丈記』の冒頭は世の移り変わりだけではなく、川の上流部がもつ位置エネルギーによって、流れる水が作り上げる川の構造を表していると考えられるから。

2 『方丈記』の冒頭は無常だけではなく、川が太陽のエネルギーを起点に自己組織化現象を起こして動的な構造を維持し、形成され続けていることを表していると考えられるから。

3 『方丈記』の冒頭は生命の真理だけではなく、海水が太陽のエネルギーによって蒸発し上昇気流を作り、雲を生じ降雨となり川に流れ込むまでの経過を表していると考えられるから。

4 『方丈記』の冒頭は世のはかなさだけではなく、水が駆動力で自己組織化現象を起こし、地面のくぼみを作って川を完成させるまでの過程を表していると考えられるから。

問6 次の記述は、ある生徒が、傍線部(4)「既に述べた自発的に形成される2種類の構造でいうと、生き物は、2番目の動的な組織化構造に似ているということができそうである。」という部分について考えたことを発言した内容である。この発言を受けた教師の指導内容として最も適切なものは、後の1～4のうちではどれか。解答番号は 8。

生徒 人間をはじめとする生き物は、常に自由エネルギーを消費しながら生活していることから、筆者が述べた自発的に形成される構造のうち、川や台風と同じ構造だと考えられることを理解しました。その上で、人間と川や台風の大きく違う点は、遺伝の関与であることも理解しました。

1 動的な構造が形を維持するためには、自由エネルギーを取り込み続ける必要があることに触れたことは評価しつつ、III 段落をもう一度読ませ、定常状態に見える川や淀みにできる小さな渦や泡がなぜ動的な存在になるのかについて理解を図るよう指導する。

2 自発的に形成される構造のうち人間は、台風などと同じ動的な構造に分類されることを読み取ったことは評価しつつ、V 段落をもう一度読ませ、台風の秩序を維持するために必要なエネルギー流入のシステムについて理解を図るよう指導する。

3 人間の体は川や台風と同じ動的な構造に分類されることを理解したことは評価しつつ、VII 段落をもう一度読ませ、自己組織化について理解させた後で、筆者が川や台風と人間が同じ動的な構造であると考えた根拠について理解を図るよう指導する。

4 動的な構造に分類される人間と川や台風との具体的な差異が遺伝であることに言及したことは評価しつつ、X 段落をもう一度読ませ、『方丈記』の冒頭が生命の真理を表すとの仮説が現代の科学によって証明されたことについて理解を図るよう指導する。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

江戸の長崎屋には、蘭学に志のある杉田玄白、前野良沢らが毎日のように押しかけていた。玄白は、日頃一座に対して高飛車な、見下したような態度を取っている良沢に対して、軽い反感の心を抱いていた。

ある日、玄白ら有志は、蘭書ターヘルアナトミア中の絵図が、実際の人間の内臓と寸分の違いもないことに、深く感嘆した。玄白、良沢ら四人は、協力してターヘルアナトミア一卷全て翻訳することを決意した。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

(菊池寛『蘭学事始』から作成)

問1 傍線部(1)

*

「とはどういうことを説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は

9。

1 ターヘルアナトミアに書かれている阿蘭陀文字は、蘭語をまだ学んでいない玄白らにとってどのように読めばよいのか分からないもので、一頁分の蘭語を解釈するのも到底不可能であったということ。

2 ターヘルアナトミアを四人で翻訳するに際し、玄白らにとって頼りになるのは留学経験のある良沢であったが、期待したほどの知識が良沢にはなく玄白らがただただ呆氣にとられていたということ。

3 ターヘルアナトミアに記されている蘭語は、玄白らにとって意味の分からない言葉の羅列で理解できず、この後どのようにに翻訳の作業をしていけばよいか想像もつかなくなっていたということ。

4 ターヘルアナトミア中の人体内部の絵図を見て、実際の人間の内臓と変わらないことに感激する一方で、記されている人体の構造への洞察があまりにも深遠で理解の範疇を超えていたということ。

問2 傍線部(2)

*

「とはどういうことを説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は

10。

1 四人が蘭語の文章の翻訳を進めていく中で、それまでの日本人では訳すことができなかった難解な言葉に接しても容易にその語意をつかむことができるようになって、蘭語を日本語に訳すこと自体の楽しみが強くなっていったということ。

2 四人が蘭語の文章の翻訳を進めていく中で、それまでの日本人が達し得なかった境地に立てたことに愉悦を覚えることが度重なり、先を読み進め新たな知見を得たいという欲求が徐々に強くなっていったということ。

3 四人が蘭語の文章の翻訳を進めていく中で、当時の日本人の知り得なかった医療の最先端に自分たちだけが達しているという専有的な意識が芽ばえ、蘭語を訳す機会が増えることにその意識が強くなっていったということ。

4 四人が蘭語の文章の翻訳を進めていく中で、当時の日本人の理解を超えた学問や技術を学ぶことで、背景にある西洋の文明や文化を学ぶために一刻も早く海外に留学したいという意欲が強くなっていったということ。

問3 傍線部(3)「

＊

「とあるが、この表現について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 11。

1 蘭語の書物が数限りなくあることを「＊ 一状態にたとえ、そのうち実用的な書はターヘルアナトミア一冊のみであることを「＊ 一にたとえている。

2 蘭学が日本人にとって未開の領域であることを「＊ 「状態にたとえ、医療の現場で患者一人一人に治療を行うことを「＊ 一にたとえている。

3 蘭学が漢学のように、長い時間をかけて大成することを「＊ 「状態にたとえ、医療に役立つ蘭書一書を訳すことを「＊ 一にたとえている。

4 蘭学全般が完成するまで徐々に発展することを「＊ 「状態にたとえ、大した時間もかからずに一世代で完成することを「＊ 一にたとえている。

問4 傍線部(4)「

＊

「とあるが、このときの「＊」の心情を説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 12。

1 学問の成果を世に知らせることよりも真理を追究することを優先する良沢の高潔な態度は尊敬に値するとは思ふものの、治療に役立つことは世の中にすぐ広めるべきだという自分の態度も肯定されるべきだと思っている。

2 太宰府天満宮で立てた誓いを守り自ら携わった解体新書の序文すら書こうとしない良沢の信心深い態度は尊敬に値するとは思ふものの、自身の名が広く世に伝わるように自分一人の名で上梓するという自分の態度も肯定されるべきだと思っている。

3 名声や利益を得ることに関して興味をもたない良沢の孤高な態度は尊敬に値するとは思ふものの、後代の批判を免れるために、良沢に序文を書かせ、その權威を利用しようとする自分の態度も肯定されるべきだと思っている。

4 学問の大成のために一語もおろそかにせず蘭語の正確な翻譯を貫く良沢の勤勉な態度は尊敬に値するとは思ふものの、医師の普及のために軽微な誤りなどは無視してでも早く翻譯を世に出そうとする自分の態度も肯定されるべきだと思っている。

問5 傍線部(5)「 * 」とあるが、このように「 *

」が主張する理由を説明したものととして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 13。

1 玄白は、大まかな性格である自分が難解な蘭書であるターヘルアナトミアを一人で翻訳し蘭学興隆のきっかけを作ることができたのは、運の良さによるところが大きいと考えたから。

2 玄白は、自らの晩年に至って蘭学興隆という大願がようやく成就したのは、後世の人々から受ける批判を気にしない自分の豪胆な性格によるところが大きいと考えたから。

3 玄白は、蘭学の草創期に毎日のように蘭書の翻訳に取り組み人体内部の構造が全て明らかになったことによって、すぐに蘭学興隆までの道が開けたと考えたから。

4 玄白は、様々な考えや能力をもった人が蘭学という学問の下に集い個々が能力を発揮することによって、蘭学興隆の端緒が開かれ今に至っていると考えたから。

問6 次の記述は、ある生徒がこの文章を読んだ後に、この文章を読んだ感想や文学史的な視点を含めて考えたことを発表した内容である。この発言を受けた教師の指導内容として最も適切なものは、後の1～4のうちではどれか。解答番号は

14

生徒 この小説の作者である菊池寛は、前に読んだ小説『羅生門』の作者芥川龍之介と同じく「新思潮派」と呼ばれていることが分かりました。確かに、『羅生門』と『蘭学事始』とは、古典作品を題材としている点や登場人物の心理を細やかに描写している点が共通していると思います。

また、菊池寛は明快なテーマをもつ小説を書いて、多くの読者を獲得したとのことですが、『蘭学事始』のテーマは「何のための学問か」ということだと思います。作者は、玄白と良沢とを対比的に描きながら、実用的な知識を学ばなければ学問する意味がないという現実主義的な意見を述べているように感じました。

1 芥川龍之介と菊池寛がともに「新思潮派」と呼ばれていることについて調べたことは評価しつつ、両者の思想や作風についてさらに詳しく調べ、その後、芥川龍之介は「新感覚派」へ、菊池寛は「奇蹟派」へ、それぞれ対立を深めて転向していった過程について理解するよう指導する。

2 古典作品に題材を求めるという芥川龍之介と菊池寛の創作手法上の共通点を見出したことは評価しつつ、江戸時代に書かれた杉田玄白の回想録『蘭学事始』も読んだ上で翻案小説とその原典とを比較することによって、菊池寛の文体の特徴やその効果について考察するよう指導する。

3 菊池寛が明快なテーマをもつ小説を書いていることについて調べたことは評価しつつ、『恩讐の彼方に』や『真実一路』など他の菊池寛の作品も読むことで、小説『蘭学事始』のテーマが学問論にとどまるものでなくより普遍的なテーマが提示されていることを読み取るよう指導する。

4 玄白と良沢とが対比的に描かれていると分析したことは評価しつつ、もう一度小説『蘭学事始』の最後に記されている玄白の手記を読み、この小説は現実主義的な立場から書かれたものでなく自己の内面を告白する自然主義的な私小説であることを認識するよう指導する。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

〔『蜻蛉日記』「新編日本古典文学全集」から作成〕

問1 傍線部(1)「

＊

」について説明したもの

として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 15。

- 1 一日には思い人が家の前を素通りしたことに落胆していたが、翌日普段と変わらぬ様子で現れたので、昨日の訪問を期待していたことを悟られぬよう無関心を装って手紙を書いたということ。
- 2 元日の訪問を期待して待っていたのに、門前を素通りした上に悪びれもせず言い訳を述べた思い人に対し、返事をする気も萎えたが、侍女から諫められたので拗ねた手紙を書いたということ。
- 3 先払いの声が夕方に聞こえたため、思い人が来ることに胸を躍らせていたが、待っても現れないので、火急の問題が起こったと心配した侍女に急かされて、安否を気遣う歌を書いたということ。
- 4 年の初めは訪れないことが常であったのに、家の前で声が聞こえたため、思い身なりを整えていたが、来訪しなかった思い人に愛想を尽かしたため、そっけない歌を書いたということ。

問2 傍線部(2)「

＊

」について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 16。

- 1 家のすぐ近くで行われている毎年恒例の宴に思い人が出席しているため、今夜こそは寄ってくれるのではないかと思い、様子をうかがいつつ待ってみようと胸の内で思っているということ。
- 2 宴の前に悪口を言い立てられたことに胸を痛めたため、次の宴までに思い人に会いたいと申し上げたが、忙しい思い人が来てくれるかどうかを思うと不安で胸が潰れそうだということ。
- 3 自分の屋敷に近い場所で行われる宴に出席している思い人に、悪口を書き並べた手紙を送り、その反応を見ることが自分への愛情の深さを試してみようと心密かに思っているということ。
- 4 これまで数回あった宴の帰り道にも思い人は我が家を訪れていないので、今夜も宴で騒いでいる声が家の近くで聞こえても、訪問はないのだろうと一人静かに悲しんでいるということ。

問3 傍線部(3)「

*

」とあるが、

*

」の理由を説明

したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。

解答番号は 17。

- 1 既に思い人への愛情が薄らいでいることを自嘲気味に自覚していたが、寝所においてさえ自分に対して裏表のない愛情を向けてくる思い人に対して、後ろめたい居心地の悪さを感じたから。
- 2 二人の関係にすれ違いが続いたために、ここ最近考えていた別離の話をもちかけたが、話をはぐらかしながら、優しく接することとで機嫌を取ろうとする思い人の様子にあきれてしまったから。
- 3 何食わぬ顔で訪れたことを忌々しく思い、これまで我慢してきた長い月日の辛さを語ったが、一言の返事もせず、寝たふりをしながら聞き流そうとした思い人に愛情の薄さを感じ取ったから。
- 4 忙しさを理由に来訪しなかったことに対して不満をあらわにしたが、驚きつつも真摯に傾聴し、申し訳なさそうな笑顔を返した思い人を見て自身の嫉妬が些細なことだと思い知ったから。

問4 傍線部(4)「

*

」について解釈したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 18。

- 1 思い人のための筵には塵が積もり、たとえ敷き直しても、他の女の所へ通うあの人はもう訪れまいという失望から、筵を永遠に取り去ってしまおうという筆者の覚悟を表現した和歌である。
- 2 塵だけが覆い積もる筵を見ていると、かつての美しい思い出が溢れてくるが、思い人からの愛情が絶えた今となっては、筵が朽ちてゆくのも仕方ないという筆者の諦念を表現した和歌である。
- 3 払った筵の上に舞う塵の儚さが、辛い恋に身を焦がす自身の境遇と重なり、このような思いに苛まれるならば、いっそ世間との縁を絶ち出家したいという筆者の宿願を表現した和歌である。
- 4 筵の塵を払ったとしても、そこに座るはずの思い人の訪れはなく、待つ身の悲しさからくるやりきれなさは、筵に積もった塵の数にも及ばないだろうという筆者の悲愁を表現した和歌である。

問5 二重傍線部A～Fのうち、形容動詞の活用語尾の組合せとして最も適切なものは、次の1～6のうちではどれか。解答番号は

19

- 1 AとC
- 2 BとC
- 3 BとE
- 4 CとD
- 5 DとE
- 6 DとF

問6 次の記述は、ある生徒が、この文章を読んで考えたことを発言した内容である。この発言を受けた教師の指導内容として最も適切なものは、後の1～4のうちではどれか。解答番号は

20

生徒 以前授業で学習した『土佐日記』と比べると、同じ日記文学でありながら、筆者の内面にある心情がより強く描かれていることに驚きました。思い人の少しの言葉や何気ない行動に対して、作者の心が動かされる様子から、物語を読んでいるような印象をもちました。おそらく、『土佐日記』と比較して、過去を表す表現が少ないからではないでしょうか。臨場感のある表現が、より物語のような印象を与えるのだと思います。

1 『土佐日記』との比較で筆者の心情が強く描かれていることを指摘し、物語との関連に言及したことについては評価しつつ、歌人の視点からの写実的な日記という形態が内省的な心情をより色濃く表し、『源氏物語』をはじめとする女流文学に大きな影響を与えたことについて理解を図るよう指導する。

2 『土佐日記』との比較で筆者の心情が強く描かれていることを指摘し、物語との関連に言及したことについては評価しつつ、文中の心情は風景や物に仮託されていることを歌人ならではの視点として紹介し、後の『後撰和歌集』や『拾遺和歌集』に受け継がれたことについて理解を図るよう指導する。

3 過去を表す表現の少なさを指摘し、それが場面に臨場感を与えることに言及した点については評価しつつ、後に書かれた『十六夜日記』の文章と比較させることで、中世の日記文学にみられる文章表現の類似性と女性の視点から描いた恋愛の苦悩という共通の主題について理解を図るよう指導する。

4 過去を表す表現の少なさを指摘し、それが場面に臨場感を与えることに言及した点については評価しつつ、和歌を用いることで生み出される臨場感についても説明し、後に書かれた『大和物語』や『落窪物語』などの歌物語が、和歌を中心とした同様の構成をもっていることについて理解を図るよう指導する。

四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

〔『韓非子』「新釈漢文大系」から作成〕

問1 傍線部(1)について、次の①、②の各問に答えよ。

① 傍線部(1)「
*
」を「われそをも

つてかんぼうをたすけてこれをしんにしやうとせむとほつす、
かならむかと。」と読むとき、これに返り点を付したものとして
最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は

21。

4 3 2 1

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

② 傍線部(1)の内容を説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **22**。

- 1 楚王は、楚が甘茂を養うことで、秦との友好関係を築くことを期待しているということ。
- 2 楚王は、楚が甘茂を助けることで、秦の宰相に就かせることを企図しているということ。
- 3 楚王は、甘茂を楚の宰相に迎えることで、統治を助けることを画策しているということ。
- 4 楚王は、甘茂が秦の計略を助けることで、楚が衰退することを懸念しているということ。

問2 傍線部(2)「*」と「*」が考える理由として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **23**。

- 1 甘茂は、苛烈で無慈悲なことで有名な史舉から少しの悪も見逃さない厳格さを学び、やがて、明察な恵王や弁舌巧みな張儀の下で、不正をはたらいていた官僚十人を一掃したから。
- 2 甘茂は、史舉に師事しながら城門の番人をしていたが、やがて、厳格な仕事ぶりから名君の恵王や中傷好きの張儀に召し抱えられ、官職を転々とする中で、失敗をしなかったから。
- 3 甘茂は、意地の悪いことで評判の史舉に師事しながらよく忍耐し、その後、明朗な恵王や多弁な張儀に仕え、長い官職経験の中で誤りもあつたが、その人柄により許されたから。
- 4 甘茂は、口やかましく厳しいことで有名な史舉に師事し、気に入られ、その後、聡明な恵王や雄弁な張儀に仕え、多くの官職を歴任している間、咎められることはなかったから。

問3 傍線部(3)「＊」について解釈したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 24。

- 1 以前召滑が使者として楚を訪れ、越は五年で滅ぶほど乱れていると報告したのに、楚の安定を優先して越を征討する機会を逃し、秦に対しても同様なのは、過去のことを覚えていないのですか。
- 2 以前召滑を越の宰相にした時は、五年の月日を費やしても、越を滅ぼすことができなかったのに、今回も同じように他国の内政に干渉しようとするとは、過去のことを覚えていないのですか。
- 3 さきに召滑が楚の使者として越を訪れ、五年以内に越を滅ぼすであろうと伝えたと、越は混乱し、楚は安定したのに、秦に対して同じ策略を行わないのは、なんと物忘れの早いことでしょう。
- 4 さきに召滑を越へつかわしたところ、越が乱れたため、五年で越を滅ぼすことができたということがあったのに、秦に対して同じ手法を用いないとは、なんと物忘れの早いことでしょう。

問4 傍線部(4)「＊」についての説明として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 25。

- 1 共立は、幼い頃からかわいがられ、高位の大臣となったが、朝から着飾り、政務をおろそかにするため、秦の宰相になれば部下は従わず、楚に利益があるということ。
- 2 共立は、周囲の期待が少ない中、ようやく大臣になれたため、富と権力に強く執着し、秦の宰相になれば自ら破滅するから、楚にとって静観することが得策だということ。
- 3 共立は、幼い頃から寵愛され、成長して地位の高い大臣となり、華美な身なりで政務を執っているため、秦の宰相になれば国は乱れ、楚にとって都合がよくなるということ。
- 4 共立は、実績が評価されず大臣になるのに長い時間を要したことで、秦王や周囲の人間に不満を抱いているため、秦の宰相になればその不満が、楚の役に立つということ。

五

学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

問1 中学校学習指導要領国語の「各学年の目標及び内容」の「第3学

年」の「内容」の「知識及び技能」において身に付けることができるよう指導するとされている事項に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 26。

1 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。

2 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。

3 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。

4 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。

問2 高等学校学習指導要領国語の「言語文化」の「内容」の「思考

力、判断力、表現力等」の「読むこと」において身に付けることができるよう指導するとされている事項に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 27。

1 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。

2 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。

3 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。

4 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。

